

川崎市市制100周年記念事業・全国都市緑化かわさきフェア実行委員会
第14回 市制100周年幹事会 摘録

日時：令和7年8月4日（月）13：30～14：30

場所：カルッツ川崎（川崎市スポーツ・文化総合センター）1階大会議室4

出席者：幹事長 アゼリア株式会社 浅岡代表取締役社長

副幹事長 富士通株式会社川崎工場 松本シニアディレクター

幹事 川崎商工会議所 向田担当部長

株式会社チッタ エンタテインメント 若井課長

かわさき市民放送株式会社 大西社長

社会福祉法人川崎市社会福祉協議会 総合研修センター 荻野課長

新百合ヶ丘エリアマネジメントコンソーシアム 内藤事務局長

日本電気株式会社玉川事業場 中山主幹

味の素株式会社川崎事業所 森次長

事務局：小池事務局長、金井事務局課長、野村事務局課長 他

コアメンバー：株式会社ホリプロ 須之部副部長

（敬称略）

1 開会

2 報告

報告第1号：未来っていいな☆まつり（R6）実施結果報告について

報告第2号：協賛レポートについて

報告第3号：記録誌について

報告第4号：実行委員会第7回総会及び交流会の開催について

—事務局より資料1～4を用いて説明

松本幹事：記念誌は確定版でしょうか。

事務局・金井課長：はい。いま印刷に入っております。

内藤幹事：記録誌は紙での冊子にされるということですが、映像などで振り返れるようにするのでしょうか。

事務局・金井課長：実行委員会の主催事業を中心に飛躍祭や、Colors, Future! Summitなど、1事業あたり2分程度の映像にしておりますので、そうしたものを後世に残していくことと、WEBサイトにアップしたいと思っております。

内藤幹事：有難うございます。

3 議事

議案第1号：「Colors, future! Actions推進ビジョン」の策定及び主な事業の令和7年度における取組について

—事務局より資料5を用いて説明

浅岡幹事長：共創アドバイザーについては、どのような役割と頻度か。

事務局・長瀬係長：割と実務的なイメージで年に2回程度。

浅岡幹事長：都合の悪い時は欠席もしかたない。

事務局・長瀬係長：そういうイメージです。

浅岡幹事長：つながりが一番大事だと思っており、できれば幹事会の方には是非と思っ
ているので、絶対ダメっていう人以外は是非と思います。

若井幹事：官民一体の事業をやるための、予算はどんなイメージでしょうか。

事務局・長瀬係長：100周年ほどの金額規模は難しいと思いますが一定程度はお財布とし
て持っていきたい、そういった方向で財政部門と調整しています。

若井幹事：新規事業みたいなものを公募していくイメージですか。

事務局・長瀬係長：イメージとしてはそうです。新しく飛び込みでくるものも、良いものが
あればと思ってますし、テーマを設けて、テーマに合いそうな企業に営業することもイメー
ジしています。

浅岡幹事長：いきなり予算ありきなのは難しい話なのだろうとは思いますが、とりあえず
受け皿になって発案をして盛り上がったなら誰がどう負担するのか、という形になっていくの
でしょう。凝り固まると中々難しくなってくる、これだけバラエティに富んだメンバーがい
らっしゃいますので、ましてやSDGsプラットフォームの3,000社以上の方が入って、なん
でもそこから川崎市がやっていること、そこから発案してよい。私も市のどこに相談してよい
か分からない時があります。なんでも懐深く相談できる受け皿になってくれれば一番いいか
なというイメージですね。

事務局・長瀬係長：おっしゃる通りの機能を持てないかと。困ったら相談、内部的にも周知

が進めば、背負いきれないものを持ってきてくれる、というのも含めて知名度をあげて官民連携の相談はみんなとりあえずここにきてくれる、ここにすれば何かしてくれそうだと思うてもらえるといい。

内藤幹事：確かにこうした活動がやっぱり持続可能でないといけないので、工夫が必要。知って関わって好きになって好きになる、のような共通のコンセプトがほしい。その中に官民の事業もあれば、官が主導にやるものもあり。トライしてみて、駄目だったらそこで次のことを考えればいくらいの方が、色々なことがスタートできるような気がします。

浅岡幹事長：みんなは当面やっていくのか。ほかの事業はどうなのか。

事務局・長瀬係長：全部が全部そのまま続けることは難しいものはあるのですが、Summitとみんなのかわさき祭は実行委員会主催事業で、ここで決めてきたものであり、続けていきたい。残し方は変わっていく可能性はあるが、取り組みの成果自体は残していきたい。

大西幹事：共創アドバイザーのイメージがあまりついていない。何をもってアドバイスなのだろうか。立ち上げを整理するのであればそういった専門の方々の方がいいのだろう。産業振興財団の役割。人をつなぐ役割をした方がいいのか、どういうアドバイスなのかいまいちゃわかってない。CFA部会の中で新しい事業を生み出していく、新たな取組みを増やしていきたいことは理解しているが、どれくらいの規模、何本くらい、何をしたいのか所謂KPTみたいなどがあった方が、よりそこに合わせた我々の関わり方になるじゃないかと思う。先程予算の話もありましたけど、どの部分に課題感を持っていて、どのくらいの規模感でどのくらいの本数で、共創の企業数とか、もう少しそういう所を、これから作っていかれると思いますので、そのあたりも含めて、共創アドバイザーとして参画できるかできないのかの判断になるだろうと思う。

事務局・長瀬係長：仕掛けをしていく上でこうした方がいい、役所の視点だけでは足りない部分をアドバイスいただくというイメージ。悩んだところではあるのですが、企業さんがきた時のアドバイスは、皆さんが経営のプロというわけではないと思うので、HPにこういうアドバイスをしてくれる人がいますと掲載する、こういう企業さんがいるなら、こんなことやってみたい、どちらかと言うと、皆さんが集まりやすくなる共創アドバイザーをお願いしたい。こういった企業さんの方と何かやっていきたいという話があったときに、アドバイスという形で関わるのですが、相談を受けた共創アドバイザーがこれは良いなと思えば直接関わることもある、アドバイザーというより直接事業に関わることもイメージしています。新しい事業に関わりがありそうだったり、先方が希望していたりするときに、皆さんをつないで入り口でのアドバイスをさせていただくイメージ。

もう一つの、規模についての質問ですが、悩んでいるところでして、どうしても力入れるものと、力いれないものは分けなきゃいけないと思っていますので、さきほどの提案制度というものを私たち市の所管に持ってくることを理想としています。一定の条件をクリアしつつ、件数も大事だと思っているところもあります。基本件数が増えたときにしっかりと市役

所の所管課とのマッチングを成立する様に努力する。社会的影響が大きかったり、関係性の数が多かったり、それは市で扱う。新事業が100も200も部会で扱うイメージではなく、一定程度大きいものに力を入れていただく。一方で、すそ野は広げていきたい。提案受付の既存の制度を伸ばすという形でやっていくという、数はすそ野は広げつつ、CFA部会としては割と大きいところをいくつかというイメージで取り組んでいくとイメージしている。

浅岡幹事長：他都市でどんな事業が成立しているかというのもお知らせいただきながら、こういうのもありなんだっていうのが、見えてくるともうちょっとイメージしやすいと思います。

小池事務局長：そもそもなんですけど、「あたらしい川崎」ということで様々な人たちが「愛着」「誇り」を持ってつながりあいながら未来へチャレンジするまちっていう、こういうばくっとした大きな目標を定めさせていただいています。100周年でいろんなチャレンジができ、つながりもできたかなと思っていて、それを残していくということで、本当に川崎で先程の内藤さんの話ではないですが、未来、新しいところに向かってみんなでチャレンジしていこうっていうスローガンのものを掲げさせていただいております。先程の提案制度っていうのが、受け身といいますか、皆さんから提案を待っている制度なんですけど、その本数が今までなくて実現もなかったんで、そういうチャレンジのすそ野を長瀬が言いましたように、広げて皆さんにもっともっとチャレンジしてもらいたい。それが実現出来るように、我々も一つの窓口になったり伴走支援したりっていう所をしっかりとやっていきたいということと、あとそれは今の提案制度は結構待っている様な待ちの形になっているので、我々からもCFA部会の所でテーマを定めながらこんなことをやっていきましょうよみたいなところを、働きかけながら作っていくようなところもやっていきたいと思っています。

チャレンジをしていただくにあたって、川崎だったらこんなメリットがあるよみたいな所はまた整理して汗かく所ですとか、実証実験の場を提供してあげるだとか、そういった所はまた整理していきたいんですけど、そういった所のチャレンジをこの推進部会でもやっていきたいと思っています。それに向けてどういう形で運営していけばこういったものが上手くできるか、運営のところの今長瀬も言いましたけれど、アドバイスをいただきたいなということもありますし、色んな提案がでてきたら今回100周年の中でもこんな事業やりたいんですけどいかがでしょうかみたいなところもございましたので、小さいところ全部相談するみたいな話ではないですけども、少し大きな弾みたいなのがあったら少しその事業自体についてもご意見いただくということなのでございます。

まだ、イメージという形で作っていますが、他の都市の事例も見ながらこういったことなら事業化できそうなど考えていきたい。中山さんもおっしゃったように委託ではないので、我々からずっとお金を出し続けても継続しないところもあって、民間のビジネスにつながるようなものを支援する。

中山幹事：現在のかわさきSDGsプラットフォームではこういった支援みたいなものはまだされていないということですか。新たに踏み込んでそういった支援をしていく？

小池事務局長：川崎信用金庫さんがしっかり支援しているのですが、分科会という形で1つ1

つ事業化されて、あまり行政がタッチしておらず、企業の皆さんの中で本当に頑張っていた形です。そういう形ももちろんあって宜しいかと思うんですけど、それに行政も加わりながら、一緒にやっていくというところで、それがスピードアップにつながり何かしらバージョンアップできればと考えています。

森幹事：川崎市側の事務局はシティプロモーション推進室が今後も存続し事務局になる理解であっていますか。

小池事務局長：なかなか組織論の話をするのは難しいんですけど、今年度は100周年のレガシー的な物をしっかり残していくということでシティプロモーション推進室の中に今プロジェクト推進担当という形で残ってございます。先程長瀬の方から説明しました様に、民間提案を受け付ける部署もありまして、色んな所で受けているので、川崎の中でも強くしていく、運営していく部署をシティプロモーションなり当然役所の中で一つの組織を残しながらやっていきたい。

森幹事：どこか窓口は必ず1つは残すのですね。

小池事務局長：そうですね。

森幹事：分かりました。さっき大西さんのお話で私も同じ様なもやもやを感じていたんですけど、私の理解としては一旦ここでつながったものを解散することは簡単ですけど、分散したものをもう一回集めなおすのはものすごく大変だと思うんですね。ですから、それこそつながっているものを、一旦つながったままの形として存続すると。明確なそれこそビジョン、ミッションだとかは見えないにしても、クリアしてしまったあと作り出すのは難しい以上は、当面存続するってことについては理解もできますし、協力できるところは協力したいと思います。

ただ、事業って言葉に引っ張られすぎている気もしてまして、我々がここに参画させていただいて全てが市制100周年にまつわる、関わるイベントに関して幅広い立場、目線から色々アドバイスというよりも意見、提言をさせていただいたと、一部色んな決定権も与えられてしまいましたけれども、幅広い立場だからこそ、色んな角度から意見が集められたと思っています。そういう視点がこれから先も必要だということであれば、おっしゃる通りここに集まっている皆さんのネットワーク、立場・知見というものはこれから先も活かされるんじゃないかなと思います。ただここに、事業、事業って加わってしまうと、そこに対して我々アドバンテージを持っているわけではなく、また1つの企業としてそこに何か協力、参画できるのかというと、そうでもないの所以对しては少し及び腰になってしまう気持ちがあるのも確かなんですよ。ですから、私は先程の浅岡さんの意見には賛成で、分からないながらもとりあえず続けてみて。その上で見えてくるものに対して、言えること、できることを考えていけばいいんじゃないかと。この場、この方々の力をどう使っていくかについては、改めて考えればいいんじゃないかなと思います。

事務局・長瀬係長：有難うございます。悩みながら、100周年のレガシーってなんだろうと思

いながら。確かに事業に寄ってしまった所もあるし、解像度が低いところもあると思いますので、是非ご助言いただけると有難いと思ひまして、今後もお付き合いいただきたいと思います。

議案第2号：令和6年度事業報告及び収支決算について

―事務局より資料6を用いて説明

浅岡幹事長：これは総会にかけるということで宜しいですか。

事務局・横井係長：その通りでございます。

大西幹事：年度の決算なので、事業としては年度またいでいても、年度で切っている理解でしょうか。

事務局・横井係長：はい。令和6年度の事業費、決算になっています。

大西幹事：緑化フェアは4月にかかったりするものとかがあったり、緑化は入っていないと思うんですが。

事務局・横井係長：はい。ここには入っていませんが、緑化の幹事会も同じ形式の資料を用意しておりまして、それについては3月末までの内容がここには記載されています。

大西幹事：分かりました。

議案第3号：川崎市市制100周年記念事業・全国都市緑化かわさきフェア実行委員会の解散及び残余財産の清算について

―事務局より資料7を用いて説明

浅岡幹事長：字面で見るとなかなか分かりづらいところもあると思うんですが、要は余ったら川崎市に戻しますよ、そういうことを最後に議決するってことになると思います。

事務局・横井係長：その通りです。もともと川崎市からの負担金については、協賛をいただいても尚必要な分について支出させてここに入れており、協賛の部分はしっかり使い切っておりまして、市の負担金がこれだけ余ったということで、それを戻す、そういった処理になります。

浅岡幹事長：書面の際には分かる様な形で、表になりしていただいて会議をする、そんな形になる。

小池事務局長：令和7年度も先程繰り越しを含めて予算がございますが、そちらも令和7年度に記録誌を作ったりなどに使わせていただき、最後余った部分については川崎市に戻すという形をとらせていただければと思います。今回の総会も含め、しっかりとご説明させていただいて、皆様にご理解いただいた上で進めていきたいと思っています。

事務局・横井係長：議案の補足なのですが、資料8に今後のスケジュールということで、8月29日に総会を開催いたしまして、その後清算処理を事務局の方で致しまして、3月に幹事会の書面開催、同じく3月に総会の書面開催を予定しているところです。

浅岡幹事長：ではこのとおり総会にて説明いただく、ということで宜しく申し上げます。

4 閉会

以上